

## XI 排尿ケアチーム



排尿ケアチームは入院患者さんが排尿自立するために病棟スタッフの支援を行っている。泌尿器科医師、泌尿器科外来看護師、リハビリテーション部の作業療法士・理学療法士からチームは構成されており、病棟Nsとともに評価、計画、実施、治療後評価を行なう。対象患者は尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉などの下部尿路機能障害の症状を有する、あるいは見込まれる入院患者である。ゴールは自力での排尿管理で、自排尿または間欠導尿が可能となって退院することを目指している。必要な症例には随時個別対応開始し、週1回水曜日のカンファレンス・回診により方針を決定・修正した。院内の病棟の大半で介入実績があり、チーム活動が院内に浸透してきている。現在週平均で3-4例のケースに介入している。

昨年度と比較すると泌尿器科入院患者以外への介入数が飛躍的に増加した。泌尿器科以外の診療科は複数回の介入例が多く（泌尿器科1.04回と泌尿器科以外2.76回）総介入数の約3分の2を占めていた。下部消化管外科、炎症性腸疾患外科、婦人科、整形外科、脳神経外科など神経因性膀胱と関連した診療科が多かったが、ほとんどのケースでは継続的な介入により自排尿または間欠導尿で排尿自立が得られた。昨年度より、外来排尿自立支援が保険適応となり、入院中に介入した患者について退院後も泌尿器科外来で継続性のある介入をしており、退院後に導尿終了したりカテーテルフリーとなるケースも増えている。

コロナ禍のために、院内講習会・講演会が開催できなかったが、地域にむけてのWeb講演会を行った。2021年度は院内講演会をweb開催する予定である。

### XI-1 今年度の主な活動

9月17日	Web講演会 兼松明弘「排尿管理の明日を照らす講演会」
-------	-----------------------------

### XI-2 2020年4月～2021年3月介入件数の内訳（合計84件）

対象患者	
患者数	84
年齢(中央値)	14-90(66.5)
男女比	63:21

依頼病棟		
病棟	患者数	介入回数
1号館7階東	1	1
1号館8階西	50	52
1号館9階西	2	3
1号館10階東	1	12
1号館10階西	3	4
1号館11階西	3	9
1号館12階	1	2
1号館13階西	2	4
8号館2階	2	12
10号館4階	3	3
10号館7階	2	3
10号館8階	2	5
10号館9階	11	30
救急病棟	1	6

依頼科			
診療科	患者数(昨年度)	介入数	介入数平均
泌尿器科	50(38)	52	1.04
泌尿器科以外計	34(6)	94	2.76
下部消化管外科	9(1)	20	
産科婦人科	5(1)	6	
整形外科	3(1)	4	
アレルギー・リウマチ内科	3	9	
脳神経内科	2	5	
精神科神経科	2	12	
循環器内科	2	5	
呼吸器外科	2	2	
炎症性腸疾患外科	2	10	
救命救急センター	1(1)	6	
心臓血管外科	1	1	
腎・透析内科	1	12	
消化管内科	1	2	

原疾患	
前立腺全摘術後	39
結腸・肛門手術後	12
子宮手術後	5
脊椎疾患	4
尿道疾患	4
精神疾患	2
その他	18

依頼理由	
術後尿失禁	39
尿閉	24
排尿困難	17
尿失禁	4

介入数	
のべ介入合計	146
回数(中央値)	1-12(1)
介入1回	61
介入2回	11
介入3回以上	12

介入内容(重複あり)	
骨盤底筋体操	41
間欠導尿	22
尿道バルン抜去	13
薬物療法	11
排尿援助	5
留置継続	2
抜去検討のみ	2
ナイトバルン	2

転帰	
骨盤底筋体操継続	40
自排尿	20
間欠導尿継続	15
尿道バルン留置継続	5
治療中止	2
ナイトバルン継続	1
不変	1